

市と八学大、同大短期大学部が協定 官学連携 地域発展を

三 沢

三沢市は22日、地域の発展を目的に八戸市の八戸学院大学(大谷真樹学長)と同大短期大学部(外崎充子学長)と連携協定を締結した。市は米軍三沢基地との友好



協定を締結した(左から)八戸学院大の大谷学長、種市市長、八戸学院大短期大学部の外崎学長

関係を生かし学生の国際交流を促す。大学側は豊富な学術知識で教育、福祉、スポーツ振興など多分野にわたる市の施策を支援する。市役所で調印式が行われ、種市一正市長、大谷学長、外崎学長が協定書に署名。

種市市長は「知の拠点である地元大学との連携は、地域の力を高めることにつながる」と期待。大谷学長は「大学としてグローバル化への対応は避けられない。取り組みが盛んな三沢市と連携を深めていきたい」、外崎学長は「地域に貢献する人材を養成することを目標に掲げてきた。この連携に関わることができ大変ありがたい」と語った。

連携は計12項目で、地域活性化のほか、市職員と学生双方の能力向上も図るとする内容。期限は2019年3月末までの約1年間で、その都度更新する。

八学大と同大短期大学部は八戸、階上、五戸、南部、新郷の5市町村と連携協定を締結済みで、三沢市が6件目。(寺沢龍哉)